

小学部五年C組

春夏秋冬

春

梅の花 桜に負けじと 花咲かす

夏

ほたる火の すみかを見つけた 夜の中

秋

望月の 夜空の下に しみじみと

冬

風花が ともしび光らせ 灯る木よ

大塚 琴音

俳句

春の日

春の花 仲良くおどる ピクニック

夏の音楽

セミの声 森にかなでる えんそう家

月夜

暗い夜 かがやく光は 満月だ

粉雪

雪明り 真つ白な町 夢の中

ブルーボネット

クロプトン アミリア

牛口 美緒

ブルーボネットは テキサスの花
青 むらさき 群青色
きれいに いっぱい 咲いている
毎年 家族で 写真撮影
私の心は HAPPYとJOY

ふうーつと自由に

マジオ パトリック

春ってうつくしいんだよ

筋 みゆな

ゆつくりとフォームを思い出す

深呼吸

深呼吸

バッテリーを見る

3ボール 2ストライク

深呼吸

深呼吸

かけ寄ってくる仲間の声が聞こえてくる
体が軽くなる瞬間 僕は自由に

春の道

池田 華乃

テニス

福田 雅幸

ひらひらと春風に乗って散る桜

ふと上を見上げると

きれいな春の空

下を見ると

きれいな桜の道

心も春にそまってい

ボールがパーン うちかえす
ボールがズドーン スライスする
ボールがポーン ネットにあたって
ぼくがかつ

アンパンマンが届ける希望

伊藤 瑛真

あなたは、アンパンマンのアニメを観た事がありますか？アンパンマンの作者、やなせたかさんの人生には、数々のつらい経験がありました。

私が心に残った文は、

「正義を行い、人を助けようとしたら自分も傷つく事を覚悟(かくご)しなればならない」

という文です。私は人を助けたいと思っても自分に頼ってきたらどうしようと勇気が出ません。しかしこの言葉を聞いて覚悟ができていなかったんだな、自分の顔を食べさせてあげるアンパンマンは強いなと思いました。

「アンパンマンのマーチ」は、やなせたかさん本人が作詞(さくし)しています。そんな「アンパンマンのマーチ」に何か思いがこもっているのではないかと思ひ、調べてみました。

「なにが君の幸せ なにをしてよるごぶ」

は弟のちひろが戦死したことからだと考えます。また、

「忘れないで 夢を」

はやなせたかさんがまんが家になるのを一度あきらめた事がきているのではと思いました。そして、サビ最後の

「ああ アンパンマンやさしい君は」

はみんながアンパンマンという思いが込められていると思いました。

「やなせたかしーアンパンマンの勇氣」を読んで私は、人生何さいからでもやり直せる、始められると思いました。やなせたかさんは三十四さいでまんが家になりましたが、アンパンマンの絵本を出したのは五十四さい。つまり、まんが家になってから二十年間ヒット作がなかったのです。まんが家になってからもつらい思いをしていて、私がやなせたかさんの立場だったら、あきらめていただろうなと思ひ

ました。私は何さいになってでもあきらめないにんたい力がヒットを産む可能性があるという事を学びました。私も、どんなこんなんでもあきらめず続けようと思ひました。

やなせたかしの正義

海野 裕信

今回、ぼくは「やなせたかしーアンパンマンの勇氣」を読んで、彼の正義について知りました。それにより、ぼくは「本当の正義」について考えさせられました。彼は戦争を経験したことで「正義」について強く考えるようになったそうです。

「正義はある日とつ然逆転する。逆転しない正義は献身(けんしん)と愛である」この言葉は、戦争が終わり今までの正義が変わったことよって、彼は気が付きました。「正義のための戦いなんてどこにもない」も同じきっかけです。

また、彼が思った正義は、「正義とはかっこいいものではない」「傷つく覚悟(かくご)が無いと正義は行えない」ということでした。正義を美化しない彼なりの考えからきていると思ひます。

ぼくは、やなせたかしの伝記を読むことよって、「この世に正義はないのだろうか」という彼の問いに答えられた気がしました。

みんなを助けるトイレの手すり

大矢 つむぎ

私がトイレに行ったとき、トイレには手すりがあった。なぜトイレには手すりがあるのか不思議に思った私はそのことについて調べることにした。

三つの方法で調べてみた。最初に、インターネットでなぜ手すりがあるのかを調べた。次に、その手すりが必要な人にインタビューをした。最後は、実際に、自分にその手すりはどのように役立つのか調べることになった。

インターネットで調べたら、次のことがわかった。トイレでは、せまい空間の中でドアの開閉や便ざにすわらないといけない。しかも、車いすの人などは立つのも一苦労なので、手すりがないといけない。さらに、トイレはたまにゆかがぬれているときがある。すべりやすくなるから、手すりがないと大きな事故につながるリスクがある。自分が想像していたよりも、手すりがいろいろなケースで、必要になることがわかった。

次に母にインタビューをした。二十年前、母はギックリごしになってしまった。その時に母は「ギックリごしになった時、こしに力が入らないから、手すりがないと立ったりすわったりがきつかった」と言っていた。そう考えると、手すりは年れい関係なく、だれにでも役に立つものなのだと思う。

そこで自分にとって、手すりとは何だろうとあらためて思った。すると大きく分けて二つの利用方法がうかび上がった。一つ目は自分の荷物をかけられることだ。買ったものや、何かたくさんのものを持っているとき、トイレの手すりをものかけとして私は利用している。二つ目は自分がけがをした時に役立つことだ。自分がけがをしたときは、思い通りには動けなくなる。トイレでは、しゃがんだりこしかけたりする動作が多いので、手すりがあると非常に楽だ。

これらの理由から、ユニバーサルデザインとはだれにでも使いやすいよう作られた物で、意外に身近にあることが分かった。いろいろな人の立場を考え、何が必要なのか考えることが大切だと思った。

「たずねびと」の感想文

伊藤 玲央奈

わたしは「たずねびと」を読んで、三つ意見があります。わたしが自分で書いたあらすじと「たずねびと」を読んで考えた意見です。

一つ目の意見は、綾が最初にポスターを見た時です。その時は、綾は「さがしています」と書いてあるポスターに自分の名前と年れいがのっけていて、びっくりしました。でも、すぐ後、原爆で亡くなった人をさがしているの気がついて、安心しました。ただ、ずっと忘れられなかったことが不思議だと思いました。なぜなら、もしわたしが綾だったら、そのポスターにのっている人がわたしじゃないのに気づいて、また元通りにもどります。でも、この綾の場合は、気になりすぎて、広島に行くことになりました。

二つ目の意見は、なぜおばあさんは綾に「アヤちゃんの夢や希望やらが、あなたの夢や希望にもなって、かなうとええねえ」と言った所についてです。おばあさんが言っていたことを聞いて、わたしは、最初、おばあさんは綾とポスターのアヤちゃんと同じ人だと思っていたと思います。でも、今聞くと、おばあさんは綾にこのポスターのアヤちゃんを絶対忘れないで欲しいことを伝えていることがよく分かります。今、わたしは、アヤちゃんの夢や希望がどういう物かを考えています。

三つ目の意見はポスターにのっていた名前のことです。「たずねびと」の中には、わたしが理解できなかった文章がありました。それは、「そして、夢で見失った名前にも、いくつもいくつものおもかげが重

なつて、わたしの心に浮かび上がってきた。」という文章です。一番最初に読んだ時は、よく分からなかったけど、今は何を言っているかがよく分かります。この文章では、綾が最初に見たポスターに書いてあった「ただの名前」だと思っていたものが、綾の考え方や見方を変えたことが表されています。

この「たずねびと」のお話で、たくさんの意見が出てきました。また何度も読みたい話でした。

見立てる

赤野 未来

私は、「見立てる」を読んで、見立てるとはあるものを別のものとしてみるという事を知りました。そして、人は知らず知らずのうちに「見立てる」という行為をしていると筆者は言いました。だから私は「見立てる」に書いてある事を実際に想像してみました。

筆者は「あやとりでは、一本のひもを輪にして結び、手や指にかけると。それを一人で、時には二、三人で、とったり、からめたりして形を作る。そしてひもが作り出した形に名前が付けられる。」と言いました。それはその土地によって名前が変わるそうです。私はあるものを別のものとして見ているからだと思います。

そこで、私も「見立てる」という行為（こいうい）をしたことがあるか考えてみました。例えば、私はひまな時によく空をながめます。色々な形の雲を見ながら、これは人の顔みたいだなとか犬みたいだなとか考えて楽しんでます。また、小さくには手のひらサイズの細長い箱をけい帯電話だと思ってままごと遊びをしていました。ちよつと考えただけでも私もふ段の生活の中で自然に「見立てる」という行為をしているということに気づきました。そして、この「見立てる」という行為は、想像力に支えられているということも分かりました。

ゴルフチャンピオンシップ

西井 健

今週、サイプレスでスイムミートがありました。ヒューストンとその周りのエリアのチャンピオンシップ大会でした。サイプレス、ケイティ、シュガーランド、ウツドランド、ガルベストン、カレッジステーションの色々なチームが来ていました。

ぼくは、せ泳ぎの五十メートルと百メートルと、五十メートルのバタフライに出ました。ぼくは、せ泳ぎの方が得意なので、絶対にせ泳ぎでメダルを取ってやると思っていました。

一日目、せ泳ぎの百メートルの予選がありました。ぼくは一位でした。タイムも自己ベストでした。とてもうれしかったです。決勝は夕方からだったので、家族でお昼ご飯を食べに行きました。おなかいっぱいになって、スマホで結果をもう一度チェックすると、失格になっていました。ショックでした。信じられなくて、動画を何度も見ました。そして、自分の失格の理由が分かりました。ターンでした。くやしかったです。

次の日、せ泳ぎの五十メートルの予選がありました。もう絶対に負けたくないので、全力を出して泳ぎました。一位で自己ベストでした。ほつとして、クールダウンプールから出てきたら、二位だった男の子が話しかけてきました。

「グッジョブ」と言われました。その子は、他のミートでいつも一位だったので、ぼくが一位になってびっくりしたと思います。

決勝はその日の夕方になりました。ここで負けたら、メダルが一つも取れないことになると思いました。全力で泳ぎました。泳ぎ終わった後、自分が何位になったのか分かりませんでした。タイムを測る人がぼくにだけ、チケットをくれました。

「これでシャツが買えるよ」と言われました。それで、一位になったのかなと思いました。同じ男の子にまた

「グジジョブ」と言われました。それで、やっぱり一位になったんだと分かりました。

その時のタイムは、また自己ベストでした。二倍うれしかったです。

ボネがくれた夏休み

平林 樹

犬のボネが家族になって初めての夏休み。今年の夏休みは、ボネがいなかったらしなかったことが、たくさんあった。

川遊び、ハイキング、夏にすずしい山へ行くこと、飛行機に乗らないこと、四千キロのドライブ。いつもは町や海で遊ぶことが多かった。でも、今回は山や川の大自然の中で二週間を過ごした。ボネと一緒（いっしょ）に自然の中で遊んだり、ボネが楽しそうにかけ回っているすがたを見て、いつもとちがう夏休みも良いなと思った。

まず、行き先を決めるのがとても大変だった。なぜならぼくたちはボネと一緒に旅行に行きたかったけれど、ボネは飛行機の席と一緒にすわれない。イタリアやスペインみたいな美味しいご飯ときれいな海のある所にはドライブでは行けない。ドイツ・ニーランドには犬が入れない。キャンプは暑すぎる。困った、困った。

その時、母がとていいアイデアを出してくれた。

「デキサスのヒルカントリーにある、きれいな川のそばでキャビンにとまるのはどう？」

みんなは

「大賛成！」

と言った。でも、この時父がその後にコロラドまで行くことを考えているとは、だれも知らなかった。

川はすずしくて、水もとてもとう明だった。入るとすぐにたくさん魚たちが足元に集まってきた。その魚をあみですくって遊んだ。ボ

ネはつかれるまで泳ぎ続けていた。（さすがウォータードッグ！）ぼくとボネはライフジャケット兄妹だった。

三日目の朝、お父さんが次の目的地を伝えた。

「ここから十六時間かかるコロラドに行くよ。」

「ガビン！」

ぼくは、長ずぎると思った。そして、本当に長かった。と中でぼくは時々、ボネをまくらにしてねた。ボネもぼくの頭に頭を乗せてきた。

二日かけて着いたコロラドのテルライドは、とてもすずしくて、きれいな山に囲まれた町だった。ぼくたちは町からゴンドラに乗って山の上に行き、ハイキングを楽しんだ。ボネもちゃんとゴンドラに乗せてもらった。ありがたい。

山の中で、ボネはリードを外してもらおうと、うれしそうにかけ回った。色んな所のおいを自由にかいで回り、たんけんしているみたいだった。ぼくたちの先を行って、リーダーのように見えた。だが時々ふり返ったりもどって来たりして、みんながついて来ているかをしっかり確認にんしていた。そんなボネがかわいかった。

ぼくたちはたきの近くまで歩き、大きな石の上でおやつサンドイッチを食べた。ボネにもおやつジャッキーをあげた。

夜は毎ばん、ボネも一緒にレストランに行き、一緒にご飯を食べた。

ある夜、ホテルに帰る時、熊がゴミ箱をあさっていた。デカかった。熊だと思ったけれど、ちよつと信じられなかった。熊はにげていったけれど、ボネは気付いていなかったと思う。ほえたりしなくて良かった、良かった。

ぼくはいつも、街の光はすぐつかれていやになってしまふ。でも、ボネと自然の中で過ごす歩くこともあきなくて楽しかった。いっぱい歩いてつかれたけど、それ以上に楽しかった。新しいものをたくさん見ることができて、自然を歩くことが好きになった。

ボネとの夏休みは、いつもとちがう経験ができて良い思い出になった。だけど、四千キロのドライブはきつかった！

今一番好きなこと

坂井 穂高

ぼくの今一番好きなことは、バスケットボールです。バスケットボールは、ぼくの今一番の生きがいであり、プレーするのも、試合を見るのも大好きです。

ぼくがバスケットボールを始めたきっかけは、マンガの『スラムダンク』を読んだことです。個性豊かな登場人物たちが本気でバスケットボールに向き合うすがたがかつこよく、ぼくもやってみたいと思いました。

バスケットボールの好きなところは、野球やサッカーと比べてたくさん得点が入るところです。シュートが決まるたびに喜べるところが好きです。また、たくさん練習して今までできなかったことができるようになる、とてもうれしいです。

日本にいたころは、チームに入って週に四回練習をしていました。土日は四時間半練習し、時には一日かけて試合にも行きました。仲間と声をかけ合いながら練習したことや、一緒（いっしょ）に試合に出てプレーしたことは、今でも大切な思い出です。

しかし、アメリカに来てからは前のようにチームで練習することができず、バスケットボールを思うようにできない時期がありました。今はスポーツクラブで練習を続けています。コーチの一人に元NBA選手がいて、とても上手なので、そんな人に教えてもらえるのはとても貴重（きちょう）だなと思います。来月からは、現地校のクラスメイトもいるチームに参加できるようになりました。早く試合に出たいので楽しみです。

先日、初めてNBAの試合をトヨタセンターに見に行きました。ヒューストン・ロケッツとオーランド・マジックの試合でした。スター選手のケビン・デュラントなど選手一人ひとりのプレーはとてもレベルが高く、スピードやはく力に圧とうされました。試合前に選手たち

のウォーミングアップを間近で見学することができ、練習でも全く手をぬかないすがたに感動し、ぼくもこんな風になりたいと思いました。せっかくバスケットボールの本場アメリカにいるので、これからもあきらめずに努力を続け、バスケットボールがもっと上手になりたいです。

巨石とネッシーに会えるかな？

生駒 凜

私は今年の夏にスコットランドに旅行に行きました。スコットランドは寒くて、半そで半ズボンで外を歩いたらこおってしまうくらいでした。私はスカイ島という島でハイキングに行きました。そのあとネスファームという牧場に行きました。

スカイ島のハイキングで、オールドマン・オブ・ストーを見ました。ストー山にある、老人のすがたにみえる巨石（きよせき）です。私は自分の目で見たら、その大きさにびっくりしました。どんどん寒くなり風が強くなりました。ちよう上の近くで風が強すぎて飛ばされそうになりました。下には岩がいっぱいあって、高いのでこわかったです。上に着いたら、息がゼーゼーしていました。ちよう上に着くと海や羊が見えてきれいでした。オールドマン・オブ・ストーはむかしの人は老人に見えたからその名前にしたけど、私には指に見えました。フィンガー・オブ・ストーだと思います。

ネスファームはネス湖にある牧場です。かいじゅうのネッシーが出ると有名になった湖の近くにあります。ヤギ、羊、ブタ、アルパカ、スコットランド牛がいました。最初にヤギにえさをあげました。日本のヤギよりふわふわしていました。次にブタにえさをあげたら、大きいブタが小さいブタをつき飛ばしてえさをうばい取っていました。あまり目が見えていなさそうなのに、においでどんどんえさを食べてい

て、ちよつといやだと思いました。姉が大人のブタをじゃましている間に、わたしが子ブタにえさをあげました。

スコットランドの景色は日本とちがいました。あまり高い木がなく、草がたくさん生えていて、羊がたくさんいました。日本やアメリカで見られないものが見られて、頭がスコットランドの記おくでいっぱいです。今回は巨石と会えたので、次はネッシーに会いたいです。

日本での約束

太田 瑞菜

私は日本にいる友達と約束を二つかわしました。それは、今どんな感じか小まめに伝えることと、友達のことを忘れないようにすることです。

二つ目の約束はもちろん、一つ目の約束も守れています。けい帯を買ってもらい、友達とメールをつなぎたいと思っていますがけい帯を買ってはもらえません。しかし、最近手紙もいいと思ってきました。そのため、手紙でやり取りをしています。届くのには時間がかかりますが、この前初めて日本から手紙が来て、内容もよかったけれど手書きなので、心にひびいた気がしました。ですから、私は、手書きで書くので、気持ち強く伝わると私は思っています。今はほとんどがラインやメールで遠くにはなれていても送ることはできて便利ですが、けい帯は「なりすまし」などがあり、友達の言葉ではない場合もあります。しかし手紙はどうでしょう。手紙だと住所で友達かどうか分かりますし、字がちがったら友達ではないと分かります。このように私は、「気持ち」がきちんと伝わる手紙もいいと思います。そのため、けい帯が無くてもいいと思いはじめるところです。

皆さんも強い気持ちを伝えるときは、手紙を相手にわたしてみてもいいでしょうか。

運動会の思い出

栗原 佳奈子

十一月一日、運動会がありました。私は、紅組として戦いました。運動会は、紅組が勝ちました。二〇二対一三七と言う点数でまくを閉じました。私は、ぼう然と立ちすくんでいましたが、本当はともうれしかったです。また、来年もここで楽しめたらうれしいです。ちなみに、私の一番好きな競争(競技)は、「つな引き」です。「つな引き」は紅組と白組で分かれます。

次に、一回戦目は紅、そして白組の順番でなびます。「位置について」と言う合図でしゃがみ、「よーい」の合図でつなを持ち、「ドン！」ですくつて引き合います。一回戦と二回戦とも、紅組が勝ちました。

あの日は、私にとつてのヒューズトン初めての運動会でした。出番はとも少なかったけれど、私なりにがんばったと思いました。

来年も、紅組か白組か分からないけれど、また、全力をつくしてがんばります！

「ぜったいに、また勝つ〜っ！」

「おしまい…！」

「枕草子」

佐々木 詩恵

私は普段（ふだん）、小説をあまり読みません。文字がたくさんあるとつかれてしまうからです。でも、自分が知ることが書かれていると、わりと読めることがあります。だから、図書館に行ったとき、「枕草子―平安女子のキラキラノート」という本を見つけて、「あ、『枕草子』って教科書にのっていたな」と思いながら、試しに借りてみることにしました。

筆者の清少納言は、平安時代に中宮定子に仕えていた才女です。彼女が書いた『枕草子』は自然や季節、恋愛、人間観察などを美しく、時にはユーモアを交えて自由につづったずい筆です。この本では、その原文のみ力を残しつつ、現代の感覚でアレンジされていて、清少納言のときめきや美意識、共感できるネタが、まるでソーシャルメディアのようにしようかいされています。

中でも好きだったのは、定子様にお仕えし始めたころのことです。「ねえねえ定子様、アタシのすべらない話、聞いてくださいませ」と、女房（にようぼう）の一人が言いました。このセリフが話し言葉で、カジュアルで、ちよつとふざけた感じなので、教科書にのっていた枕草子とちがって場面が想像しやすくて、話の続きをどんどん読み進めたくまりました。定子様と話している様子がまるで友だちとしゃべっているみたいで、昔の話なのに、今の自分にも近い感じがしておもしろかったです。

私はこれまで、昔の物語は読みにくく、意味も分らないことが多くて、あまり興味がありませんでした。でも、この本は現代語訳されていたおかげで読みやすく、意味も理解できたため、いつもよりずっと面白く感じました。

赤道の上のシンガポール

オルミ 健造

ぼくは、今年の夏休みに、シンガポールに行きました。マリナーベイ Sands のてん望台、ブッタ・トユース・レリック・テンプル・アンド・ミュージアム、カニ料理、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ、ACミラノの対アーセナルのサッカーの試合、リバークルーズ、パラワンビーチ、スペクトラの光と水のショー、アウディーディーラー、チャンギ空港に行きました。

マリナーベイ Sands のてん望台では、四十六階のデッキからシンガポールの半分ぐらい見えました。すばらしい景色でした。ブッタのお寺では、じゅん金の仏像とぼくのえとの仏像を見て、ひつじ年の仏像は弓矢を持っていたので、だから、ぼくもアーチェリーが上手いのかな、と思いました。そしてその夜、カニ料理を食べました。

次の日、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイで、スーパーツリー・グロブの遊歩道を歩いて写真をとりました。外はとても暑くて、あせがいつぱい出ました。その夜、ACミラノ対アーセナルのサッカーの試合に行きました。そこでいとこのジェイクに会いました。フィールドに近かったからPK戦がよく見えて楽しかったです。フィールドに

スペクトラの光と水のショーは少し雨がふりましたが、ぼくが雨のあたらない場所を見つけました。ぼくが一番好きだったところは、最初のレーザーのところが好きでした。

アウディーのディーラーでアウディーのラリーカーを見つけました。これはとても貴重（きちょう）で、その理由は、ラリーで走った本物の世界で一つしかない車だからです。

最後の日は、パラワンビーチに行きました。アジア大陸の一番南のポイントです。そのビーチで砂のお城を作りました。

最後の最後にチャンギ空港に行きました。そこはジュエルが有名で

す。四階から流れ落ちるたきの光のショーは、とてもかつこ良かったです。

全部良かったけど、シンガポールでランボルギーニを二台、ポルシェを二十台、フェラーリを九台、そしてロールスロイスを二台見られたのはうれしかったです。

ぼくのせい

三木 海人

ぼくは、ずーっとペットがほしかったのです。毎日、「犬を飼っていい？」と聞いていました。でも、犬を飼ったら、旅行に行く時どうする？ 毎回そうでした。だから、ぼくは小さくてかん単にえさをあげられるペットを考えました。それで、思い付きました。かえるがいね。それで、さっそく外で見つけてかごの中にいれました。

最初のかえるの名前は、「ナイル」でした。ぼくは、毎日えさをあげて、かわいがってやりました。でも、一ぴきでは、足りないと思いました。だから、四週間たったら、二ひき目のかえるをつかまえて、「ヘケット」という名前を付けました。最初は、上手くいかなくて、ナイルがヘケットのえさをぬすみました。でも、だんだん、仲良くなりました。いっしょにねたりして、仲良くしていました。ぼくは、とてもうれしかったです。二ひきとも、とても大きくなりました。

そして、ペットを飼ってから、最初の冬が来ました。母の友達にあずけて、旅行に向かいました。旅行の後、かえるに無事会えたとき、とてもうれしかったです。

その後も、ずっと、ぼくは、かえるが大好きでした。毎朝、えさを入れて、水をあげました。とても楽しかったです。一緒（いっしょ）に、宿題をして、話しかけました。「いいお父さんだねー」と、ずっと思っていました。でも、それは、すぐに変わってしまったのです。

今年の夏、ぼくは、もちろん日本に行きました。東京に行って、友達に会って、すごく楽しかったです。でもある日、父から電話がきました。それで事実が分かりました。

ナイルが死んだ。

すごく悲しかった時でした。

その後、その悲しみにたえられず、かえるを同じように見られませんでした。それで、どんどん、かえるのえさと水を入れない日が続きました。そして、他のかえるが、ぼくのせいで死んでしまいました。

ぼくのせい、全部が。